

様式第2号（第10条関係）

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和2年度第1回佐伯市食育推進会議

2 開催日時

令和2年6月24日（水）午後2時から午後4時5分

3 開催場所

佐伯市中村南町1番1号 佐伯市役所 本庁舎 5階 庁議室

4 出席者

会長	河野 辰也	副会長	染矢 弘子	委員	相川 良恵
委員	浅利 歩美	委員	梅田 一弘	委員	鍵野 江津子
委員	久野 由香	委員	桑原 政子	委員	坂本 晃彦
委員	佐藤 ソノ	委員	渡邊 正太郎	委員	下川 モト子
委員	渡辺 英征	委員	増野 荘平	委員	中村 香純
委員	豎山 恵子	委員	大良 栄一		

出席数 委員 17名

(市職員等)

観光ブランド推進部 部長 川野 義和
ブランド推進課 課長 官崎 一也
ブランド推進課（事務局） 泉 志保 高次 秀爾 清家 由梨乃
地域おこし協力隊 海野 千恵子 梶川 里沙

計7名

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

議題 （1）これまでの経過と課題について
（2）令和2年度の事業概要について
（3）佐伯市食のまちづくり補助金について

結果

議題（１）については、令和元年度の取り組みについて報告し、「東九州バスク化構想」についての質疑が多く挙がった。また、今年度より「まちづくり推進課」から「ブランド推進課」に食育事業の所管課が変更になったこともあり、職員の紹介を行った。

議題（２）については、今年度のブランド推進課の取り組む事業についての説明をした。質疑応答も含めた意見交換を行い、活発な意見交換が行われた。

多くの事業があるなか、委員を含め市民に知られていないことが多いという意見が多数挙がり、情報発信の見直しを行うことを提案された。

議題（３）については、今年度の「食のまちづくり推進活動補助金」に申し込みしている団体の紹介を行った。団体の活動は、有機農業・魚食普及・味噌作り・料理教室等様々であった。

8 審議の内容

○議事

（１）意見交換

今までの経過を振り返り、今年度、食のまちづくりで進めて行くべきこと、課題点などについて下記のとおり意見を頂いた。

以下、意見交換内容記載。

委員：「東九州バスク化構想」について具体的な活動内容や実績、延岡とどの様に協働しているのかを知りたい。

委員：首都圏の方々が来るような飲食店があればバスク化がすすむのでは。

委員：事業内容を見て沢山の活動を実施しているのに、知らないことが多かった。情報発信の方法について見直すべきである。

委員：情報発信が上手くいけば、同じ様な活動をしている人たちを繋げることができるとは思いませんか。イベントの開催等、もっと情報発信してくれれば私達委員も協力することができる。

委員：情報の郵送も良いが、一番手軽なのは SNS ではないか。繋がるきっかけが欲しい。

委員：一般家庭へ向けて、ケーブルテレビ等の情報媒体を使用しオーガニックの普及をすすめてほしい。空論で終わらない様努力が必要。

委員：オーガニック憲章が制定されて嬉しい。野菜を作っている私たちは安心安全な野菜を作り、「食べたものが身体を作る」という言葉を信じ、今後がんばっていききたい。

委員：有機農業に関しては、今後有機農業を始めていく若者が生活できるくらいの価値を付けていくべきである。消費者も価格が少し高くても価値のあるものという価値観を持ってほしい。

委員：佐伯には豊富な食材が沢山あるので、それにどんどんお金を使ってほしい。

事務局：オーガニックや有機農業に関しては、食の補助金を使用し、市民団体が活動する中で少しずつ広がっている。当課では農政課との協議を実施するようにしている。オーガニックを体感していただき、普及につなげるため、12月に「さいきオーガニックまるしえ」を開催する予定である。

委員：食育の根底には「子どもの健康」というものがある。子どもの糖尿病、朝食の欠食など様々な問題があるのでこの会議で働きかけができないか。昨年度の食育関連事業の取組を見ると、健康増進課の取組が素晴らしい。

委員：今年度の取り組み内容を見ると、子どもに関する分野が無い。「弁当の日」実施日に委員が見に来るのも良いのでは。

事務局：食育に関する事業を行っている課を集めた、「庁内食のまちづくり連絡会議」という組織があるので、そちらで該当部署に意見を伝える。

委員：もう一度コロナウイルスでの影響を考え、市内での内需を考えていくべきである。接客・価格全てのクオリティを上げていかなければ生き残れない。また、何か市で対策を考える際は、外部委員を入れていただきたい。現場の声を取り入れてほしい。

部長：市役所でも様々な対策を実施した。例を挙げるとコロナウイルスの影響を受けたヒラメに関しては学校給食で使用してもらった事になった。また、市内店舗を対象としたエールクーポンの販売を行った事等がある。コロナウイルスの第2波に向けての対策も考えなければならないので、是非皆様の意見を参考にしたい。

委員：公民館での教室を開催するが、なかなか人が集まらない。子育て世代に来てもらいたいが集まらない等多くの課題がある。

委員：「男の料理教室」は当初より希望者が増えた。ケーブルテレビに出していただいたことに反響があったのかもしれない。

事務局：各課、イベントを開催しても意識の高い方には足を運んでいただけても、もっと食育に興味を持っていただきたい方に参加していただけていないという課題がある。

委員：数年前の食育推進会議より、話す内容が濃く難しくなっていると感じた。
もっと色々な情報を知っておかなければいけない。

副会長：委員がフラットに意見を出し合えるようになったのは非常に良いことである。

会長：この会議の在り方も検討しても良いのでは。

委員：現在米農家の方々と、「自分たちの米を広めるために勉強しよう」ということで講師を呼び、勉強をしている。その結果米の違いや、自分たちの米の特徴を説明できるようになった。次回の会議にて米の食べ比べ等しても良いのでは。

会長：委員の皆さんの積極的な意見を頂いた。事務局には情報発信の方法について検討していただきたい。情報があれば委員も積極的に協力をしていきたい。次回の会議では、桜ホールで、米やオーガニック野菜の食べ比べ、ランチミーティング等を検討する。

以上で第11回の佐伯市食育推進会議を閉会します。ありがとうございました。

9 会議の資料名一覧

- ・令和2年度第1回佐伯市食育推進会議
- ・佐伯市食育推進会議 委員名簿
- ・平成31年度 食のまちづくり推進活動補助金
- ・令和2年度 食のまちづくり推進活動事業申込一覧
- ・令和元年度各市町村食育関連事業一覧

10 問い合わせ先

佐伯市役所 観光ブランド推進部 ブランド推進課 ブランド推進係
電話番号 22-4673 (内線 249)